

一枚のトラクトの価値

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう」

(伝道者の書 11:1)。

当教会は今から 23 年前の 1986 年 11 月 23 日(日)に第 1 目の主日礼拝を守り、ここから一步を歩み出しました。11 月 1 日に現在地(民家)に赴任し、私たち夫婦は子どもたちと心を合わせて祈り、家庭礼拝を守りながら、開拓の準備を重ね、同時に近隣の方々に集会案内を兼ねトラクトを配布したのです。そして、最初の礼拝に近所の方が二人出席して下さり、心から主を崇め、主に感謝を捧げたことです。

更に、神様の御業を祈り求め、集会案内とトラクトを一軒一軒配布し続けました。数ヶ月したある夜、突然 K 姉がトラクトを手にし、それに印刷された地図を頼りに尋ねて来られました。その時の喜びと感動は忘れることが出来ません。お聞きすると、K 姉は小さい頃は C S に通われており、その時は、近くの病院で看護師として働いておられたのです。K 姉は看護師という不規則な勤務でありながら教会生活を守られました。そしてこの K 姉がキリストを受け入れ、受洗の恵みに与り、当教会の初穂となったのです。そのことを今も感慨深く感謝しながら思い出すことです。

その後、正式に伝道所を開設し、更に祈りつつトラクトを配布し続けました。神様のあわれみにより現在地の土地建物を購入し、建物も改築しました。そして、神様の恵みにより救われる方も起こされ、又、転入会される方も加えられ、紆余曲折を経ながらも、小さな教会を設立して現在に至っております。

その後、正式に伝道所を開設し、更に祈りつつトラクトを配布し続けました。神様のあわれみにより現在地の土地建物を購入し、建物も改築しました。そして、神様の恵みにより救われる方も起こされ、又、転入会される方も加えられ、紆余曲折を経ながらも、小さな教会を設立して現在に至っております。見て教会を訪ねて下さる方もあり、続いて礼拝に出席される方や受洗される方も起こされ、主を崇めつつ、心から感謝しております。そのことを思うと、一枚のトラクトもあだやおろそかに出来ないと心に留め、救霊の御業に与らせて頂きたいと願っております。

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。」(詩篇 126:5~6)。

(全国家庭文書伝道協力会への原稿)